



埋文だより

第76号

平成30年 6月29日発行

中世の武家屋敷跡



掘立柱建物跡



かまど跡



石臼転用の礎石

武家屋敷跡を囲む土手と溝の一部

もとおさと

本御内遺跡は霧島市国分中央に位置し、県立国分高校の校舎改築に伴い、発掘調査を行いました。縄文時代から近世までの幅広い時代の土器や瓦などが発見されましたが、特に中世の武家屋敷と考えられる遺構が発見されたことが特筆されます。土手や溝で方形に囲まれた敷地内には掘立柱建物やかまどが作られており、柱穴の中には柱を支える礎石が入っているものがありました。石臼が割れたものを礎石に使っている例もあります。

たんかぶつ

かまど跡には、炭化物が残っており、科学的に分析すれば、かまどが作られた年代などがより明らかになると考えられます。このような武家屋敷跡が発見されたのは県内では初めてのことです。

目次

- ・中世の武家屋敷跡…………… 1
- ・発見！発掘速報…………… 2・3
- ・上野原遺跡今昔ほか…………… 4
- ・啓発・普及活動 現地説明会ほか…………… 5
- ・平成30年度発掘調査予定遺跡…………… 6

発見！発掘速報

平成 29 年度, 発掘調査が行われた, 県立埋蔵文化財センターと(公財)埋蔵文化財調査センターの調査成果の一部を紹介します。

…県立埋蔵文化財センターの発掘調査
…(公財) 鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センターの発掘調査

中世様相の一端

～火除地跡(鹿児島市)～



発掘調査風景

火除地跡は, 鹿児島市山下町(国の鹿児島第3合同庁舎内)に所在しています。城山の麓で, 鹿児島城の内堀と外堀間の御楼門正面に位置しており, 御楼門跡との間には国道 10 号線が通っています。江戸時代の鹿児島城下絵図では「明地」等と記されており, 江戸時代, たびたび火災が発生したことにより, 防火地帯の「火除地」として空地化されました。近世の層では, 近世瓦や陶磁器などが多く出土し, 調査区東端部に下駄など木製品や木片を含む溝もありました。地表から 2 m 位で中世の層になり土師器, 中世陶磁器, 国産陶器(備前)等が出土しました。調査区北側には東西方向に延びる太さ 5 cm 大の杭列が発見されました。砂の層で水がわき出る地質であったと推測されることから, この杭列は地盤改良のためと考えられています。



出土した瓦



溝で出土した木製品(下駄)



中近世の出土遺物



東西方向に伸びる杭列



おだやかな悠久の暮らし

～山ノ上 B 遺跡(鹿屋市)～



山ノ上 B 遺跡は, 鹿屋市小野原町に位置し, 鹿屋体育大学の南隣にあたります。国道 220 号古江バイパス建設に伴い, 約 5 か月間発掘調査を行いました。

調査では, 古墳時代の竪穴住居跡 2 軒・土坑 3 基を発見しました。また, 縄文時代の集石も 8 基見つかりました。縄文時代早期の

集石は, およそ 8,000 年前～9,000 年前と考えられます。集石の中には, 一番下に石皿を置いたものがあり, 焼けた跡もありました。熱の伝わり方や石の組みやすさを考えたのかもしれない。



集石下の石皿



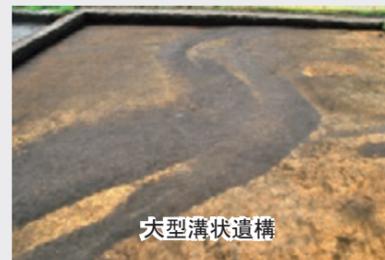
完掘した竪穴住居跡



縄文時代の集石遺構

地域の交流

～原村遺跡(曾於市)～



大型溝状遺構



勾玉

原村遺跡は, 曾於市末吉町南之郷に所在し, 近世から縄文時代早期までの遺構・遺物が発見されています。近世では大型の溝状遺構が 5 条見つかりました。大きなものでは長さ 30m 以上, 幅は 4 m 以上あります。中には S 字状に曲がっているものもあります。弥生時代では, およそ 2,200 年前のものと思われる弥生土器や石材を磨いて薄く加工した磨製石鏃, 勾玉等が見つかりました。また, 瀬戸内地方で作られたと思われる弥生土器が見つかりました。縄文時代早期では, 大分県の姫島で産出される黒曜石が複数見つかりました。当時から離れた地域との交流があったことがうかがえます。



弥生時代の土器



磨製石鏃

長く続いた人々の暮らし

～川久保遺跡(鹿屋市)～



細石刃

川久保遺跡は, 串良川右岸の標高 30～40m の台地上にある遺跡で, 旧石器時代から近世までの遺構・遺物が発見されています。

旧石器時代では, 細石刃が注目されます。細石刃とは木や動物の骨の柄に溝を彫り, はめ込んで使ったと考えられる替え刃式の石器です。槍やナイフとして使いました。この細石刃をたくさん剥ぎ取るための本体となる石器を細石刃核といいます。川久保遺跡で発見されたものは畝原型細石刃核とよばれ, 宮崎県と鹿児島県の大隅半島でしか確認されていない石器で, 主に頁岩や砂岩が使われています。

その他, 縄文時代の調理施設である連穴土坑や多くの集石, 古墳時代の竪穴住居跡も発見されています。



畝原型細石刃核の出土状況



連穴土坑



住居跡発掘調査状況

上野原遺跡今昔

⑤ 集落が営まれた時代 II

～縄文時代早期後葉（約 7,500 年前）～

対の壺形土器

上野原台地の南東側に位置する区域の最も高い場所からは、対で発見された壺形土器をはじめ 11 基の土器埋納遺構が見つっています。この場所で、マツリが行われたと考えられています。一般的に弥生時代になってから使われるようになる壺形土器が、5,000 年以上もさかのぼる約 7,500 年前にすでにつくられていたことも明らかになりました。



対の壺形土器（双子壺）

上野原遺跡の調査成果以降、同じ時期の壺形土器の出土例が増えつつあります。約 7,400 年前の遺跡である城ヶ尾遺跡（霧島市）からは、埋納された壺形土器が、ほぼ完全な形で 3 個体出土しています。それでも上野原遺跡のような 2 つの壺形土器を対にして埋められた状態での出土例はまだありません。

トロトロ石器

写真の石器は、縄文時代の石器で、形は石鏃に似ていますが、表面が熱でとろっと溶けたようになっています。熱で溶けたわけではありませんが、見た感じで「トロトロ石器」と呼ばれています。

この「トロトロ石器」は、県内でも上野原遺跡をはじめ十数か所の遺跡からしか見つかっていません。また、縄文時代早期（約 8,000 年前）の押型文土器と一緒に出土することが多いということぐらいしかわかっておらず、何のために作られたのかははっきりしていません。



トロトロ石器

企画展講演会



上野原縄文の森では、8月26日（日）まで、第51回企画展「バックナンバー古の美術品」が展示されています。南日本新聞に3年以上に渡って連載している「古の美術品」を一堂に集めたものです。上野原遺跡の「対の壺形土器（双子壺）」「トロトロ石器」はもちろん紹介されていますが、今回は執筆である県立埋蔵文化財センターの大久保浩二次長が講演を行いました。5月12日（土）に行われた講演会には、多くの方が訪れ、発掘当時の様子や新聞掲載への経緯、また実物の遺物を使っての解説に、埋蔵文化財の新たな魅力を感じられたようです。県内遺跡を知る上で、ひとつの情報源になっています。企画展の見学に是非おいでください。

普及・啓発活動

本御内遺跡 現地説明会

表紙で紹介した本御内遺跡では、国分高等学校の生徒を対象に現地説明会を実施しました。調査の結果、国分高等学校の前身である始良郡立実科高等学校（大正2年設立）の建物跡や、縄文時代から近世にかけての遺跡であることがわ



かりました。特に中世における南九州の武家屋敷の形態を知る上で貴重な成果が上げられました。この遺跡の発掘期間中、隣では授業やスポーツが行われており、生徒の



遺構の見学



出土遺物の説明



教職員への解説



体育館横の発掘現場

皆さんも興味を持っていたようです。そこで、1月16日（火）に、この遺跡の紹介を日本史選択の生徒を対象と行いました。そのことが好評で、先生方も併せて全校生徒に説明会を行うこととなりました。本年度も県内各地で発掘調査が行われます。お近くで発掘調査を行っている遺跡を訪ねてみませんか。（6頁参照）

中学生の職場体験学習

5月23日（水）～5月25日（金）までの3日間、中学生2人の職場体験学習を実施しました。土器洗いに始まり、注記や接合、拓本作業、科学分析や保存処理、情報処理や図書館業務まで幅広く実習しました。整理作業の業務を中心に体験することで、報告書作成までの様々な工程に関わり、歴史も肌で感じる事ができたことでしょうか。予想外の仕事や職場で働く人々との触れ合いも、将来の糧になることと思います。3日間の感想に、「歴史がもっと好きになった」「将来の仕事の参考になった」と話す姿が印象的でした。



埋蔵文化財センターでは、発掘調査報告書作成だけでなく、その調査成果を県民の皆さんに伝えたり、埋蔵文化財の大切さを知っていただくために、下記のような取り組みもしています。お気軽にお問い合わせください。詳細は、ホームページをご覧ください。（下記のQRコードを読み込むとそれぞれのページをご覧になることができます。）

まいぶんキット貸出事業



埋文職員の授業支援



教員、埋文専門職員養成講座



Information

県立埋蔵文化財センターでは、平成30年10月13日（土）に「縄文フォーラム2018」を志布志市で開催します。大隅半島では初めての開催になるイベントで、これまでの発掘調査の成果などを紹介する予定です。多数のご参加をお待ちしております。詳細につきましては、後日、県立埋蔵文化財センターのホームページに掲載します。（6頁参照）

見学してみない?
発掘現場

平成30年度 発掘調査予定遺跡



埋蔵文化財センターでは、県内各地で発掘調査を行っており、その様子を見学することができます。見学を希望される場合は、県立埋蔵文化財センターか公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター、市町村教育委員会にお問い合わせください。

- ▲ 県立埋蔵文化財センターが行う発掘
 - (公財)埋蔵文化財調査センターが行う発掘
 - 市町村教育委員会が行う発掘調査で県立埋蔵文化財センターが支援する遺跡
- ※【 】内は、調査期間(予定)です。見学に行かれる際は、事前に各担当組織にご確認ください。



当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。

なお、当センターのホームページは、鹿児島県 (<http://www.pref.kagoshima.jp/>) または、上野原縄文の森 (<http://www.jomon-no-mori.jp/>)、QRコードからお入りください。

検索キーワード

上野原縄文の森

埋文だより 第76号

発行日 平成30年6月29日
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL: <http://www.jomon-no-mori.jp>
E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp